

第5回高知県における特別支援学校の再編に関する検討委員会

1 日 時 平成21年7月24日（金）18:30～20:30

2 場 所 県教育センター分館

3 出席者 委員15名中14名出席、事務局6名出席

4 議 題

(1) 第3回検討委員会での補足説明

(2) 意見交換

5 内 容

議 題 (1) 特別支援学校の再編に関する協議

議 題 (2) 今後の予定

(1) 協議の概要

(事務局からの説明)

県中央部における県有の遊休施設については、学校として活用できる施設はない。

事務局としての今後の高知県の特別支援学校の在り方（方向性）について。

本県の特別支援学校の在り方については、平成17年12月に「高知県における特別支援教育の在り方について（審議のまとめ）」をいただき、以降、特別支援教育の一層の充実を図るための取り組みを行ってきた。今回の検討委員会もこの審議のまとめの提言を受け、設置した。

肢体不自由特別支援学校については審議のまとめで、高知若草養護学校については専門的教育を充実させると共に、比較的近距離にある本校と分校については医療機関との連携のあり方を含め、それぞれの学校の役割を整理する必要があると提言されている。肢体不自由教育の充実については、教員の専門性はもとより、児童生徒の障害の多様化に対応していくため医療や療育との連携は不可欠である。事務局としても療育福祉センターに隣接する子鹿園分校に本校を移転して、分校を本校とし肢体不自由教育の拠点校にするという構想は以前から持っており、今回検討委員会を設置した経緯には、以前から連携をとっていた療育福祉センターの施設機能について今後検討されるという受け止めをしたこともあった。2月19日の第1回検討委員会で「たたき台」を示すようにと言われたため、今まで構想として持っていた本校と分校の統合についての方向性を「たたき台」として示した。この方向性については早急には実現できなくなったが、今後の中長期的ビジョンとして変わるものではない。

子鹿園分校の児童生徒数の減少への対応については子鹿園分校の今までの役割を見直し、通学生も受入れる学校とすべきと考えた。このことにより、適正な学習集団が確保され学習効果も向上し、学校機能も有効に活用される。また、通学生の受入は、地域の学校で専門的な教育を望む子どもや保護者のニーズにも答えることができる。この方向性は、本校と分校の統合前から対応することができる子鹿園分校のあり方（短期ビジョン）として位置付け、分校の役割の整理の観点から子鹿園分校の方向性として「たたき台」に示した。

知的障害特別支援学校については審議のまとめで、専門教育を充実させると共に、山田、日高の在籍者数増加への対応策として、全県的な特別支援学校の再配置等を勘案し、高知市及びその周辺に知的障害特別支援学校を設置することも検討する必要があると提言されている。この提言を基に、早急に対応しなければならない課題となっている県中央部で増加する知的障害児童生徒への対応としては、山田、日高養護学校の増築ではなく学校規模の適正化を図り子どもたち一人一人に安全で行き届いた教育を

保障するという観点から、新たな学校の設置が必要と考えた。新たな学校としては教育環境や教育条件面を考えると統合後の高知若草養護学校本校が望ましいとの方向性を持った。また、この新たに設置する学校は職業教育を中心とした高等部のみの分校という特色ある学校を構想した。

また、資料収集や分析をする中で、県中央部への分校設置等を行っても山田養護学校の児童生徒数増の歯止めにはならないことが分かり、審議のまとめの提言にもある、全県的な再配置等の観点で知的障害特別支援学校の再編について検討した。特別支援教育の理念を取り入れ、本県の地域性にも考慮した知的障害教育を充実するという観点で考えたのが安芸地域等への分校の設置である。地域の学校で専門的な教育を受けたいという子どもや保護者のニーズに応じて分校を設置することは特別支援教育の理念からも望ましい方向性と考えた。この分校はノーライゼーションの理念に基づく30人から40人規模の学校を想定しており、東部地域の特別支援教育のセンター的機能を持たせる。この構想は短期的なビジョンとして位置付け「たたき台」に示した。

高幡地域の分校についても同様な考えだが、日高、中村養護学校の位置を考えると、地域のニーズがどれだけあるかは調査の上、慎重に対応する必要がある。

以上のように、平成17年度の「審議のまとめ」以降温めてきた構想に新しい視点でのビジョンを加えて第3回検討委員会において「たたき台」を示した。この方向性を事務局が描く今後の高知県の特別支援学校、特に肢体不自由及び知的障害特別支援学校の短期から中長期のビジョンとして報告する。

高知若草養護学校と子鹿園分校の統合については、第4回検討委員会でも療育福祉センターの今後の方向性とも併せて慎重に対応すべきとの意見が多くあったので、中長期ビジョンとして位置付け、今後とも時機を見て検討していきたい。

県中央部における知的障害の児童生徒増への対応としての分校設置は、23年度新設を目途に短期的なビジョンとして考えている。高知若草養護学校本校の利用は困難になったが、県中央部への分校設置は必要なので、その学校の在り方としてどのような形態が望ましいか安芸地域等への分校設置とも合わせて意見をいただきたい。

肢体不自由特別支援学校の再編について

- 子鹿園分校の教育の質を上げるという意味でも、学校の選択肢という意味でも子鹿園分校に通学を認めるという方向がいいのではないかと。通学を認めるという形になった場合、高等部までという形で考えて欲しい。集団に慣れるということが非常に難しい場面もあるし、高等部から若草の本校に行く状況が起こると子ども達にとってもマイナスである。
- 高等部までであるというのが、一番安心して通える。高等部になると社会自立に向けて、街中で、買い物学習とか生活に密着した学習が必要になってくる。高等部になると本校へ行かなければいけないということになると、そこがデメリットになる。中長期ビジョンとして分校と本校を統合するのであれば、なおさら早めに高等部まで設置する方がスムーズに統合も行くのではないかと。
- 障害保健福祉課の方にいらしていただいているので、今後の展開はどのようにしていくのかということがもし分かれば教えていただきたい。

(障害保健福祉課) 前回療育福祉センターの今後のあり方について説明した。特に施設の今後の機能については、児童福祉法の改正等が大きく影響するという説明をした。改正案が国会の方に上程されていたが、国会が解散ということになり、児童福祉法の改正案も廃案ということになってしまった。今後どういった形で、また新たな改正案が出されるのか、その状況を見ながら、あり方の検討を行っていきたいが、いつ頃からということはまだ見通しが立っていない状況である。

- 県が行った調査、私どもが学校独自で行った意見聴取の中でも、PT・STなどに協力を得るべきだ
という意見もたくさんあるので、新しい制度になった時点でもう一度この論議をする必要があるの
ではないか。
- パワーポイント資料4の短期ビジョン・中長期ビジョンについて話をしてきた。高等部の設置も求
めていきたいという意見が出されたということで、この肢体不自由の特別支援学校に関しては議論
を納めたい。

知的障害特別支援学校の再編について

- 教育内容というところでは、例えば高等部のみの職業教育ということが出ていた。その辺などから
意見はないか。
- 今の日高での高等部の教育内容については、比較的軽度のお子さんについての教育内容が不十分で
はないか。
- 高等部を設置する時に高知県では、軽度重度という事ではなくその子どもたち一人一人に合った教
育課程、一人一人に合った課題を与えていこうということでスタートしたと認識している。職業教
育については、従来ずっとやってきたが、なかなか職業につながっていないという現実がある。日
高養護学校では作業学習の中身、いわゆる作業種の検討、それと同じように領域教科を合わせた指
導である生活単元学習の見直しをそれぞれの学年グループで行っている。少し外れるが、分校の設
置について、高等養護学校ではないということの確認をしたい。また、23年度に必ずスタートで
きるのかどうか、それまでの間、来年再来年における山田と日高の現状についてどう解決するのか。
- ここで言われている職業教育というものが、一般就労を考えているのであれば、その人たちを対象
にしたような内容となってしまうのかということとは危惧するし、開店休業というのが一番良くない
ことなので、どのような高等部の教育内容を考えるのかというのは議論すべきである。
- 高等養護学校については反対。高等養護学校という例えばクリーニングに限定したような作業種を
構えてやっていくといった形は高知県には合っていないのではないか。高等部ということで、障害の
重い子も軽い子もおり、その中で、作業学習を通じて働く意欲とか、そういうものを学んでいく、
そういった形でやっていくべきではないか。
- 教育内容をどう組むかといった時に、知的障害特別支援学校は、自立活動をきちんと位置づけてな
いというところがあり、作業学習や生活単元学習を中心にしていたというのが今までの教育的蓄積
だと思う。自立活動をあえて意識して入れるとか、重視するというようなことで、一人一人に応じ
たということも可能性としてはありえるのではないか。
- 領域・教科を合わせた指導形態を考えた時に、その中で自立活動をしっかりと認識して指導してい
くという形が、知的障害のお子さんの一般的な特性から考えるといいのではないか。ただ、自閉症
などの子どもさんによっては、そういった認識をきちっと持ってやっていかなくてはいけない部分
があるが、自立活動を知的障害の中で、前面に打ち出すと、なかなか逆の問題がでてくるのではな
いか。
- 確かに、領域・教科を合わせた指導が、知的障害教育の中でメインであるが、その中に自立活動は
必ず含まれている。だから領域教科を合わせた指導である。ただ、子どもと毎日向き合っていると、
目の前のやらなくてははいけないことに目を取られてしまって、自立活動の部分で、なぜそれをやっ
ているのかということが抜かることがあるのではないかという意見が教員からあった。その辺の押
さえは再度やっていかなくてははいけない。

- いろいろな事情があるにせよ就労を目的とした作業学習中心になると、ますます軽い方の受け皿になるような気がする。就労を目的としてするのであれば、学校だけの問題ではないので、ここで話をしても意見はまとまらない。もっと高知県の経済が良くなって障害のある方を自主的に雇用するような企業が数多く出てこないかと改善されない。
- キャリア教育の推進ということがよく言われている。知的障害教育においても勤労観とか職業観といったことは今までもやってきていたが、もっと深めるということも必要。全国的な就職先を見るとサービス業が増えてきている。合わせて今回の改訂に伴って専門教科に「福祉」が新設された。これからの教育内容としては高知県特有のものを考えていく必要があるのではないかと。千葉県では高等学校の余裕教室を利用して特別支援学校分校を設置している。作業種としてはサービス業を特化したメンテナンスを考えたと聞いた。山形の特別支援学校はろう学校の敷地内に学校を設置したということだった。
- 特別支援学校に通っている生徒は交通機関が使えるかどうかということが問題になると思う。中央部に分校を設置するのであれば、まして高等部で就労を考えるのであれば、やはり交通機関を使う練習ができる地域、実習先に自分で通勤する練習ができることが必要。知的障害の子ども以外でも自立を考えている方は自分で通学できるかということが重視されると思うので、それを考えた上で分校設置を考えてほしい。
- 知的障害の場合は、喫緊の課題ということで、現実問題として何年も待てない。単に遊休施設だけではなく、既存の学校と一緒にできないか。県外ではすでにそういった学校もたくさんある。そういうことができるのであれば、比較的早くできるし、地域の拠点校としても理にかなっている。この会で、私たちがあそこがいい、ここがいいという問題ではないので、そういった意見が多勢であれば、そこを県にまとめてもらうという形の方が現実的。
- 今の話は喫緊の話として考えているのか、ずっとそのような形で進めていくことが良いというふうに考えているのか確認したい。
- 安芸の方の分校、例えば新しい施設を作るというふうになった場合、私の知っている限りでは、この20年もしないうちに安芸の生徒さんの数は極端に減っていくということを聞いている。そうなった時に、すぐに閉校ということもあるのではないかと。そこははっきり言って誰にも見えないことなので、そのあたりは長期といわれても特に安芸地域については長期的な計画が立てられるかという心配がある。
- 山田養護学校に通う166名のうち安芸市の方が20名、香南市が25名いて今45名いるが、これが今後どうなるかはまだ分からないということと、このパワーポイント資料でも短期ビジョンという形で出されているので、中長期というよりも来年再来年どうするかという話としての議論だと思われる。
- 保護者のアンケートの中にも東部地域に分校があれば通わせたいという意見がかなりの率であった。事務局の説明でも高知市から山田養護学校に行っている割合は日高より少ない。山田養護学校は大変広い校区があるので、短期ビジョンで安芸地域等への分校設置について前向きに検討していただいたらどうか。最近の概念の括りとしては同一敷地内で一部施設を共有する二つ以上の学校という、つまり一つ敷地の中に複数の特別支援学校が存在するということがある。こういうことから言えばそれぞれの専門性を持った学校が、それぞれの学校の中にあるということで17年の答申にも矛盾はしないし、中央部での可能性を探るという意味でも検討に値するのではないかと。
- 事務局の短期ビジョンの3つについては賛成する。これからは障害を持っている子どもたちでも地

域の中で自立していくべきだと思う。自分で通えるという点では、街中が良いという意見に賛成。その中で、一つはせっかく作るのであれば特色ある教育課程を作っていくべきではないか。先ほど福祉の話があったが、そういった専門課程を模索すべきではないか。これからインクルーシブの教育というものが出てくると思う。地域で共に隔てなく生きていく社会を目指していくためにもこういう考え方は良いのではないか。併設、併置というのも財政がない中で模索している県がたくさんあるようだ。

- 併設ということで、山形の例を言ったが、体育館といったところは共有している。併置ということで、宇和ろう学校の話をしたが、そこは校長先生は一人で学校は違っている。それで併置という形をとっている。ただ、併置の場合も境界線といっちはおかしいが、共有部分の使い方については協議している。複数の障害部門の設置あるいは併置ということはもう当たり前の状態になっているということを他県の方が言っていた。
- せっかく新しい学校を作るのであれば、今高知に住んでいる障害者の親の声を聞くということが大事なのではないか。親にアンケートを取ってみるとか、中学校に行かれています方、特別支援学級に通っている方がどういう要望を持っているのかを聞いてみたい。
- 例えば日高養護学校の146人のうち48人が高知市。山田養護学校の166人のうち32人が高知市。そのような形で高知市だが日高や山田を選んでいるというところでのニーズを捕まえる事はできると思う。その結果が今回のアンケートの結果で、例えば日高を例に取ると一人一人の発達段階に応じた専門的な教育、寄宿舎、進路指導、就労支援、スクールバス、職業教育、一貫教育などが出てきている。この結果はすごく考慮する必要がある。その人たちがなぜ高知市の学校ではなく、日高や山田を選んだのかということで、多分新しい学校ができてきたらその人たちが行くかどうかということがポイントになる。ところが多くの人の意見を聞くということは本当に大事なことだが、全ての人に聞くと散漫になってしまう。どの辺りまでというところで、今回はこの高知市に行っている子もいる日高山田の保護者のアンケートに留まったというところ。
- 併設、併置の話になると盲学校、ろう学校、江の口養護学校とかそういうところに併設ということをするれば、県中央部の方はやりやすいというような感じを受けるが、そういうことは難しいということか。それと、市立養護学校のことが前出たが、市立養護学校の生徒数は横ばいではなかったか、市立養護学校の機能をもう少し上げると高知市の人はずらに行けるということはないのか。なぜ、市立は横ばいで他は増えているのか。
- 既存施設の利用ということで、具体的な名前まではここでは挙げられないだろうという話が先ほどあった。そういう意見があったというところでは受け止められるが、回答は誰も持っていない。一方で、市立養護学校の状況と他の学校の状況はというところではやはりそこには保護者のニーズがなんらかあると思われるが。
- 寄宿舎の存在が大きいのではないかと。私も寄宿舎で身の自立とかそういったものを身につけて日高を選んだ。同じ考え方の方ばかりではないと思うが、山田、日高を選んだ中にはそういった方の割合が多いのではないかと。
- 以前の会で寄宿舎の必要性ということが出たことがあったが、寄宿舎の中での将来に向かっての身辺自立であるとか、24時間体制での教育やしつけの部分とか家庭ではできないところを望まれる保護者の方が多いと思う。たたき台を見た時に、高知市に高等部のみの養護学校を設置し、特色ある教育課程を組んでいくということであれば、知的障害の教育の中でキャリア教育の立場からもう一度見直していこうということが、様々な学校で実践研究がなされている。キャリア教育の視点か

ら見た教育課程の在り方をもう一度見直してみる。そういった高等部のみの学校、しかもそれは将来生きていく力を育成していくということであれば、全県下から募集をして、その場合は寄宿舎が必要だと思うが、そういう新しい学校があっても良いのではないか。ただ高知県の財政事情を考えると今まで言えなかった。将来構想としてはそれくらい持つておかないといけないのではないか。設置形態については、それぞれがもっと柔軟に考える必要がある。

- 併設、併置ということで話が進んでいるが、具体的な学校名が挙げられないという事情があるということも分かるが、喫緊の問題として考えていくにあたって、就労も含めた教育的効果というのが、併設で可能かどうか。当然今までと同じぐらいの専門性を持つと言えども、体育館を共有するとかいろいろな事情がある中で、どういうふうに具体的に考えていけばよいか見えてこない。具体名を挙げることは難しいのか。
- 今後の展開としては、あと2回検討委員会を計画している。例えば第6回で、よりそのあたりについてもっと議論したいということはあると思うが、方向性なり結論は導けないと思う。なので、意見をたくさん出していただくということ、具体的に次の会で資料を挙げてもらうという形になると思う。
- 例えば、具体的な学校の名前が挙がってきたとする。最初若草が挙がってきて、保護者の意見を聞いたり教員の意見を聞いたりするのに時間をかけて、県の調査と合わせて会に臨んだ。それをやり始めると全部の学校でやらなくてはいけなくなる。そこまではなかなか労力的に難しいのではないか。今現実的なことを考慮しながらも理想的なもので良いのではないか。そのあたりについては県が一番分かっているので、この検討委員会の論議を大事にしてもらえれば十分だと思う。
- 今考えられる意見や方向性を、理想的なものも現実的なものも出してもらって後は集約を事務局と会長副会長ですることにならざるを得ない。喫緊の課題としては知的障害と肢体不自由の特別支援学校をどうするのかということでもここまで話し合ってきたので、そのための議論であれば重要な意見になると思う。そこに関わらない意見になってしまうのであればこの検討委員会の範疇ではないということなる。
- 短期ビジョン、中長期ビジョンという形で示しているが、これはあくまでも現在の肢体不自由と知的障害の課題に対する方向性ということで示したもの。安芸地域への分校設置が短期ビジョンということで、将来的に子どもが減ってきたらすぐ閉校になるのではないかと指摘もあったが、分校については喫緊の課題への対応ということで23年度を目途に設置をするということが短期のビジョンということ。その学校の在り方については、地域のセンター的な役割を持たせるとか地域で障害のある子もない子も共に育ち合おうという形の学校にしていくというねらいがあるので、これが例えば10人とかに減っても、そういう形で中長期的な方向性を持っていきたい。高等養護学校という話があったが、これは第3回の検討委員会でも話をしたが、あくまでも高等部普通科で職業教育を中心とした形の教育課程を組むということで話をした。職業教育といっても就労ということについては企業就労、福祉就労いろんな形の就労もあるので、企業就労という形で行けば職業コースとかそういうコース制がいいわけだがそういったところまでは考えていない。高等部の普通科における高知市中心の地域性を活用した形の学校設置ということ。企業とか事業所、施設等もあるが、そういったところでの現場実習も可能になる。そういった教育活動を取り入れていく、職業教育を中心にした学校というふうに考えていた。あくまでもこの検討委員会については肢体不自由と知的障害の早急に対応しなければならない課題への対応ということで、いろんな学校の在り方についても意見が出ている。その他の障害種の学校についても時期をいつにするかということとは言えないが、

第2期ということで検討委員会を立ち上げ、2次の再編計画という形で今後の在り方について検討していかなくてはいけない。そういうことで、総合的に高知県の特別支援教育の充実に向けた再編計画をやっけていかなくてはいけないと考えている。市立養護学校の件は高知市の教育委員会との協議を第4回以降2回行った。市立養護学校の児童生徒数が横ばいという話だったが、近年急増していて今年に限って昨年より10名減少した。今後の中部地区の山田養護学校、市立養護学校、日高養護学校この3校の知的障害特別支援学校の在り方について高知市と協議をしている。

- 市立養護学校がもし10名減らずにいたら、他のところはそれほど増えなくてすんだのか。10名減った理由というのは寄宿舎の問題だけなのか。近くていいと思うのだが、なぜ減っているのか。
- 理由については高知市の事情もあり詳しく話をするとはできない。高知市との話の中で出てきたのは、やはり県立の特別支援学校の教育内容だとか学校施設に魅力を感じているということで、希望されているという話が出ていた。
- 教育内容や学校施設で県立を選ばれたということになると、寄宿舎はまた別かもしれないが、その内容についてももう少し市立養護学校が何とかしないといけない部分があって、そこでもだいぶ吸収されるところがあるのではないかと、このことを思うが。
- 県立と市立なので、中身的なものについては口出しできない部分がある。お互いが、課題を共有して、これから対応していこうじゃないかという形で協議を進めている。
- 市内の方にかっちりとした高等部の学校があれば一番いいと思う。日高の方に高等部ということで話があったが、子どもたちが通うのにどうやって行けばよいかという、交通機関について不思議に思っていたので、できれば高知市内で作ってもらえればいいと思う。それがなければ併置とか併設の学校があればいい。
- 自分の職場では各知的障害特別支援学校の卒業生がいる。市立養護学校から来た方に何度教えても分からないことがあった。色が分からないのではないかとということで、学校に問い合わせたが、そんな事実はないと言われた。そこで、また繰り返し教えていたが、やはりどうしても分からないので、病院で診てもらったら色が分かりにくかった。現在は学校ではそのような検査はしていないそうである。本人もつらかったと思うが、作業場としても負担になった。
- 今皆さんのご意見を聞かせていただいて、短期ビジョンという意味では、早急な分校の設置、それについては併置とかいろんなことが考えられる。既存の学校も含めて早急に対応する必要があるのではないかと。それについては、反対がないようなので、そういったことでいいのではないかと。長期的なものについても話す機会が今後必要だと思う。
- 特別支援学級の保護者の意見を、分校設置について聞いて欲しい。
- 今後の課題になると思うが、高等学校に特別支援学級がないので中学校の特別支援学級対象者が高等部に進学することということがある。その部分に関して教育内容等でアンケートを取ることは重要だと思う。
- 高知市在住の方は高知市の学校の寄宿舎に入れないと聞いたがどうか。
- 寄宿舎については、入舎の規定があり、一つは自宅が遠隔地で通学が困難であること、もう一つはその他の事情により特別に入舎が必要ということで学校長が認めた場合ということになっている。高知市内のお子さんが寄宿舎に入れないということはない。
- 学校長が認めれば入れるが、寄宿舎はいっぱいなので遠隔地の方で満員になっていて、なかなか高知市内の子が高知市内の特別支援学校に行く時に寄宿舎を使うのは実際には無理な状態にあるのではないかと。

- 入れないことはないと言ったが、遠隔地の方が優先になってしまうと、絶対入れるという保障はない。困難な方から優先になると思うので、確実に入れると言われれば、保護者もそう思ってその学校を選んだのに、急に出なさいと言われてたらまた困ったりする場合はあるのではないか。
- 原則的には通学が困難なお子さんのために設置されている。日高養護学校も山田養護学校もそうだと思うが寄宿舎の収容人数が決まっていて、入舎については毎年度入舎の希望を取って校内検討委員会なりで検討しているのではないか。
- 山田養護学校では設置要綱に基づいて入退舎委員会を開いて検討した。まず遠隔地ということ挙げて、スクールバスの沿線におられる方も除外しようということになった。特別な事情の方は数名入舎している。パワーポイントの5ページにある、たたき台の新たな知的障害特別支援学校の設置に伴い山田養護学校の校区から高知市を除外する、ということは平成23年度以降で、分校の設置というのも喫緊の課題であるが23年度ということになっている。来年度もまだ増えそうな児童生徒数への対応がまだ見えてこない。
- 事務局としての予測としては、山田養護学校は若干減ると考えている。ただ、あくまでも予想。今後体験入学などで情報をつかみ、十分連携をとり合いながら、どうしても対応しなくてはならないことについては、個別に学校と相談させてもらい対応する。
- ご意見を集約していただいたら、それで背中を押していただいて、作業に事務局の方が入るという形をとらせていただきたい。その時に、空き教室があればそれでいいという考え方は自分たちは持っていない。作る以上はそこにしっかりした教育環境を作らなくてはいけない。そうなるとしても22年4月からということは無理である。予算を立てて環境整備をしていくということを逆算すると、23年が最速。来年度のことについてはご相談させていただきながらできるだけ早く対応する。
- 喫緊の課題については個別に学校と連携をとりながら解決を図ることだし、短期ビジョンについては統合後の後利用ということで棚上げになったかと思うとそうではなく、23年度に県中央部に分校を設置するという方針は変わらないということだし、安芸地域等への分校設置についてもぜひ前向きに設置していただくということで、かなりビジョンとしては出てきたのではないか。これ以上の論議は長期ビジョンに入ったりしていくこともあるんじゃないかと思ったので、短期ビジョンについてはいろんな意見を踏まえて次の会にどう臨むかということについて、会長から諮ってもらえればと思う。

(2) 今後の予定

本日議論したことで、パワーポイント4枚目の肢体不自由の短期ビジョン中期ビジョン、6枚目の知的障害特別支援学校の短期ビジョンなどについては、合意をし、それを具体化する際の意見というものが多岐にわたって出たと思う。今後、次回協議を続けていくのか、一旦ここで事務局と会長副会長で集約をさせていただいて、まとめの会として7回目を迎えるのかということについて検討したい。つまり、もう一度6回目で意見を交換しておいたほうがいいというのか、6回目を議論した時にこれ以上なかなか進まない部分もあるし、何の柱を立てて議論したらいいのか不明なところも出てきやしないかということもあって、6回目は事務的に集約することにして、7回目でまとめる、そのどちらかと思っている。私としては、次回は事務局と会長副会長でまとめさせていただきたいと思う。つまり、第6回はなく第7回に再度お集まりいただくという形を提案したい。意義がなければ、次回皆さんにお集まりいただくのは8月27日(木)の18:30~会場は教育センター分館ということで、最後のまとめの会にしたい。